

厚生委員コーナー 12月号  
～ 飲酒の危険～

- 「お酒のルール」には理由があります
- 「ビールや缶酎ハイなど、お酒のテレビ広告には、こんな決まり事があります。」
- 5時～18時の間は広告を流さない
  - のび元を通る「ゴクゴク」という音を使わない
  - のび元をアップにしない
  - 25歳より若い人をモデルにしない



大人でも飲めすぎで記憶をなくしたり依存症になったりする人がいるのが、お酒の怖さです。「おいしそう」「飲んでみたい」と子どもが思ってしまうように、きちんと決められているのです。

そして、このルールはノンアルコール飲料も同じです。20歳以上の方が飲むために作られているので、「ジュースみたい」「アルコールが入っていいからOK」ではないのです。

**危険** 飲酒により「交通事故」「転落」「溺水」「吐物吸引による窒息」などの様々な事故が引き起こされます。



みなさんのからだは、成長しているところです。もちろん内臓も成長しています。とても大事な脳も成長している今、アルコールを飲むと脳がちがんでしまう。脳の神経細胞が「ダメージ」を受けます。また、アルコールに慣れた子のため、急性アルコール中毒になりやすく、命にかかわることもあります。

薬物乱用の悪循環

一度乱用してしまうと、二度三度と乱用しなくなります。それは薬物の作用によって脳が変化させられるからです。薬物の作用が切れると苦しくなってまた乱用をくり返すという、悪循環におちいってしまいます。やがては薬物のとりこになり、薬物を手に入れることと乱用することしか考えられなくなり、人間らしさを失うことになっていきます。

